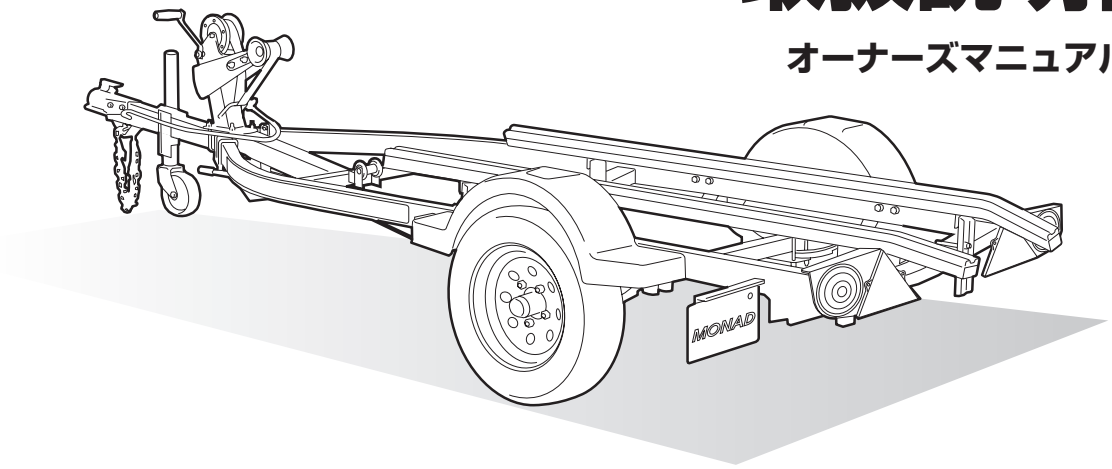
モナドトレーラーシリーズ

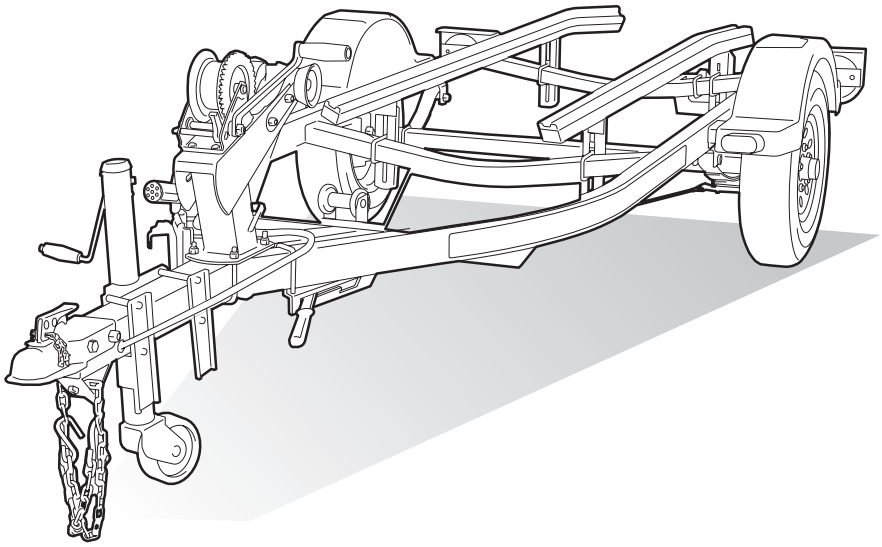
Monad TRAILER

SX-500BK Low / SX-500MJ / SX-350MJ

取扱説明書

オーナーズマニュアル





販売店様へ　：本説明書の35ページの保証書に販売店様のご店名・ご連絡先を記入・捺印する欄がございます。お客様が安心して使用し、またアフターメンテナンス等がスムーズに行えるよう必ず記載・捺印してください。
なお、販売店様に関わる大切な事項もございますので一通りお読みになってからお客様にお渡しください。

お 客 様 へ　：この取扱説明書はトレーラーの車検証とともに大切に保管してください。

SPECIAL GEAR & ACCESSORIES
Y'S GEAR

はじめに

このたびはMonad SXトレーラーをご購入いただき、誠にありがとうございました。
このトレーラーは、ワイズギアが開発したマリンジェット用のトレーラーです。マリンジェットの運搬にご使用ください。
本書は、トレーラーの取り扱い方法、手入れ、点検・整備基準、関連法令などについて記してあります。
トレーラーは一般の車両とは異なる特性を持ち、取り扱いや走行方法など独自のものがあります。誤った取り扱いをすると生命に関わる重大な事故につながることもありますので、必ず本書をお読みになり、正しくご使用ください。
また、本書はお読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

目　次

安全上のご注意 ····· 3

1. 商品概要
- ■コーションラベル ····· 4
- ■各部の名称 ····· 6

2. 運転前の準備
- ■牽引車の点検 ····· 7
- ■トレーラーの点検 ····· 7
- ■積載物について ····· 8
- ■セッティング ····· 8

3. 使用方法
- ■牽引車との連結 ····· 9
- ■トレーラーのはずしかた ····· 12
- ■マリンジェットの水面への降ろしかた（下架） ····· 12
- ■マリンジェットの積載（上架） ····· 14
- ■タイダウンストラップの締め付け方 ····· 16
- ■トレーラーの運転上の留意点 ····· 17
- ■駐車場、有料道路の利用 ····· 19

4. メンテナンス
- ■日常の手入れ ····· 20
- ■LEDランプユニットの交換 ····· 21
- ■タイヤの取り外し、取り付け ····· 22
- ■リーフスプリング部分への給油 ····· 23
- ■シーズンオフ前の手入れ ····· 24
- ■シーズンオフ中の保管 ····· 24
- ■定期点検整備 ····· 24
- ■車軸部の点検整備 ····· 25

5. 付録
- ■故障かな？と思ったら ····· 27
- ■法令上の遵守義務 ····· 28
- ■仕様 ····· 29
- ■点検整備基準 ····· 30
- ■定期点検整備記録簿 ····· 31
- ■点検整備記録簿 ····· 32
- ■保証書 ····· 35

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの安全上のご注意をよくお読みください。

本書では正しい取り扱いに関する事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠警告	取り扱いを誤った場合、死亡・重傷・傷害に至る可能性が想定される事項を示します。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害に至る可能性が想定される事項を示します。
要　点	正しい取扱方法や、作業上のポイントを示してあります。

⚠警告

●積載は、最大積載量以下にする。

積載重量をオーバーすると、走行安定性に影響を及ぼし、重大な事故につながる恐れがあります。

●トレーラー本体を分解したり、改造したりしない。

故障や事故の原因になります。

●カプラー荷重は25～45kg。

カプラー荷重（牽引車とトレーラーとの連結部分の荷重）が25kg～45kgになるようにマリンジェットの積載位置を調節してください。カプラー荷重が大きすぎたり小さすぎると、走行安定性に影響を及ぼし、重大な事故につながる恐れがあります。

●ヒッチボールサイズは適合するものを使用する。

ヒッチメンバーはB・C級以上のものを使用してください。
また、ヒッチボールサイズは2インチのものを使用してください。サイズが合わないものを使用すると、重大な事故につながる恐れがあります。

●牽引車後面の突出物に注意。

牽引車の後面にタイヤやラダーなどの突出物があるとバウストップと接触することがあり危険です。突出物がある場合は、取り付けを行なうお店にご相談ください。

●タイヤ・ホイールは、適合するものを使用する。

タイヤ・ホイールは改造しないでください。また純正以外のものを使用する場合、必ず適合するものを使用してください。改造したものや適合しないものを使用すると、重大な事故につながる恐れがあります。

⚠警告

●不安定な場所に置かない。

トレーラーを駐車する場合、不安定な場所には置かないでください。又駐車中は、必ずパーキングブレーキを掛けてください。坂などでは輪止めも必要です。

●牽引車とトレーラーを必ず連結した状態で上下架を行なう。

上下架は牽引車とトレーラーを必ず連結した状態で行なってください。

●積載したマリンジェットは必ず固定する。

マリンジェットは、タイダウンストラップなどで前後の2箇所を固定してください。落下などの原因になりますので、固定しないでトレーラーを動かさないでください。

注意

●車検期間及び保険の確認。

トレーラーを一般公道で使用する場合は、必ず車検を受けなければなりません。また、自賠責保険への加入も義務付けられています。ご使用前に確認してください。

●手入れする場合、ベンジンやシンナー、化学ぞうきんなどは使用しない。

表面の処理が傷み、変色や変質の原因になります。手入れは一般車両と同様に行なってください。

●ウインチ／アシストハンドルはバウストップ後ろ側で固定する。

ウインチ／アシストハンドルは、バウストップより後ろ側になるように固定してください。前側に位置すると、牽引車と接触し破損する可能性があります。

不適切な使用や改造により起こった故障、事故などは一切保証いたしかねます。
本書をよくお読みになり、正しくご使用ください。

1. 商品概要

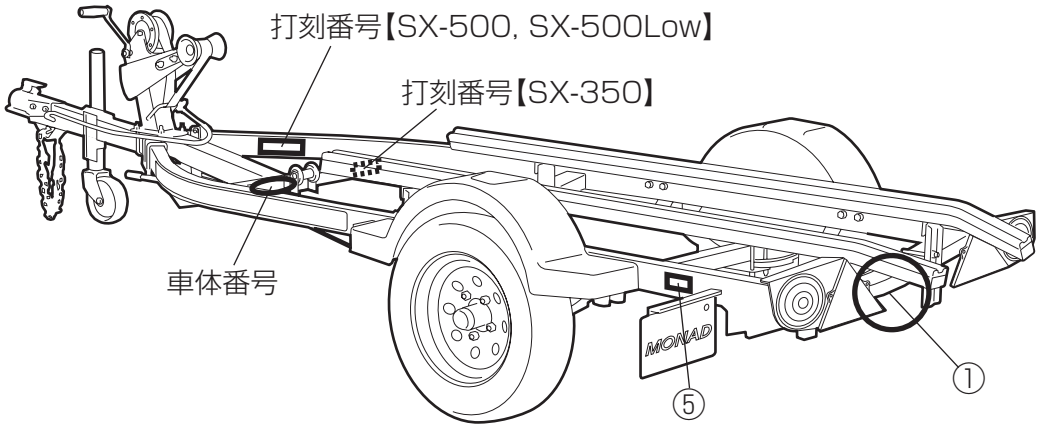
このセクションでは、コーションラベルの貼付位置や内容の詳細および各部の名称を説明しています。

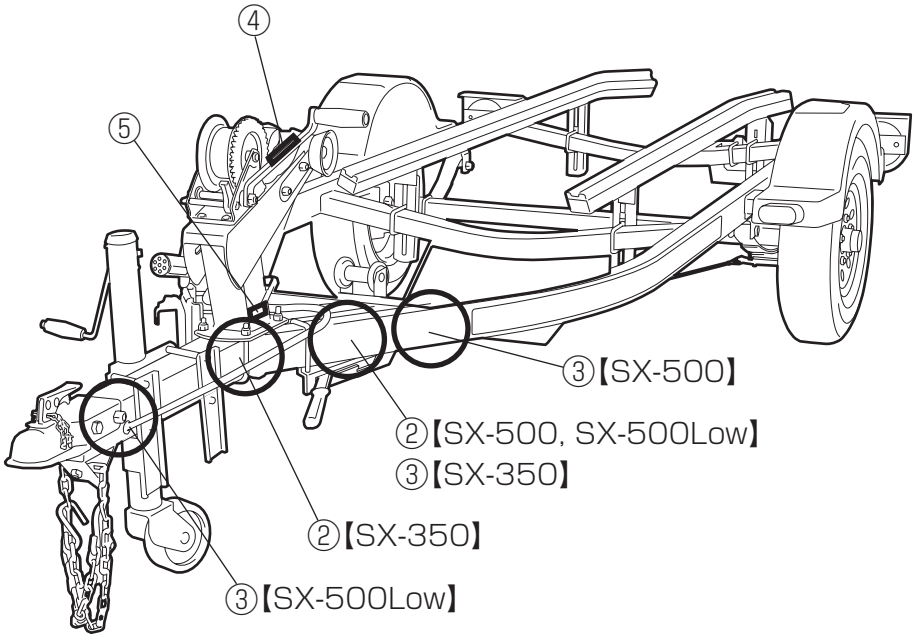
■ コーションラベル

コーションラベルは、各部に貼り付けられています。コーションラベルには、使用する上で注意していただきたいことが記載されています。

●コーションラベル貼付位置

コーションラベルの貼り付けてある位置を図で示します。
※貼付位置は変更になる場合があります。





●コーションラベル内容

コーションラベルの記載内容を示します。
トレーラー使用中に汚れや傷などでコーションラベルが見えなくなってしまったときは販売店に依頼し、貼り付け直してください。

① SX-500BK Low / SX-500MJ

最大積載量500kg

SX-350MJ

最大積載量350kg

② SX-500BK Low / SX-500MJ

⚠ 注　意

◎このトレーラは、次の自動車で牽引して下さい。他のものでは牽引できません。
1. 自動車検査証に記載されている自動車。(整備手帳にも記載されています。)
2. ヒッチ・ボール径　2インチの自動車。(ヒッチ・ボール径はボールに刻印されております。)
◎連結は確実に行ない、また安全チェンを必ず掛けて走行して下さい。
◎このトレーラに積載できるマリンジェットの大きさは長さ　3450 mm
幅　1610 mm　重さ　500 kg以下のものに限ります。

SX-350MJ

⚠ 注　意

◎このトレーラは、次の自動車で牽引して下さい。他のものでは牽引できません。
1. 自動車検査証に記載されている自動車。(整備手帳にも記載されています。)
2. ヒッチ・ボール径　2インチの自動車。(ヒッチ・ボール径はボールに刻印されております。)
◎連結は確実に行ない、また安全チェンを必ず掛けて走行して下さい。
◎このトレーラに積載できるマリンジェットの大きさは長さ　3290 mm
幅　1470 mm　重さ　350 kg以下のものに限ります。

③

注意　走行前には必ず以下の項目を御確認下さい。

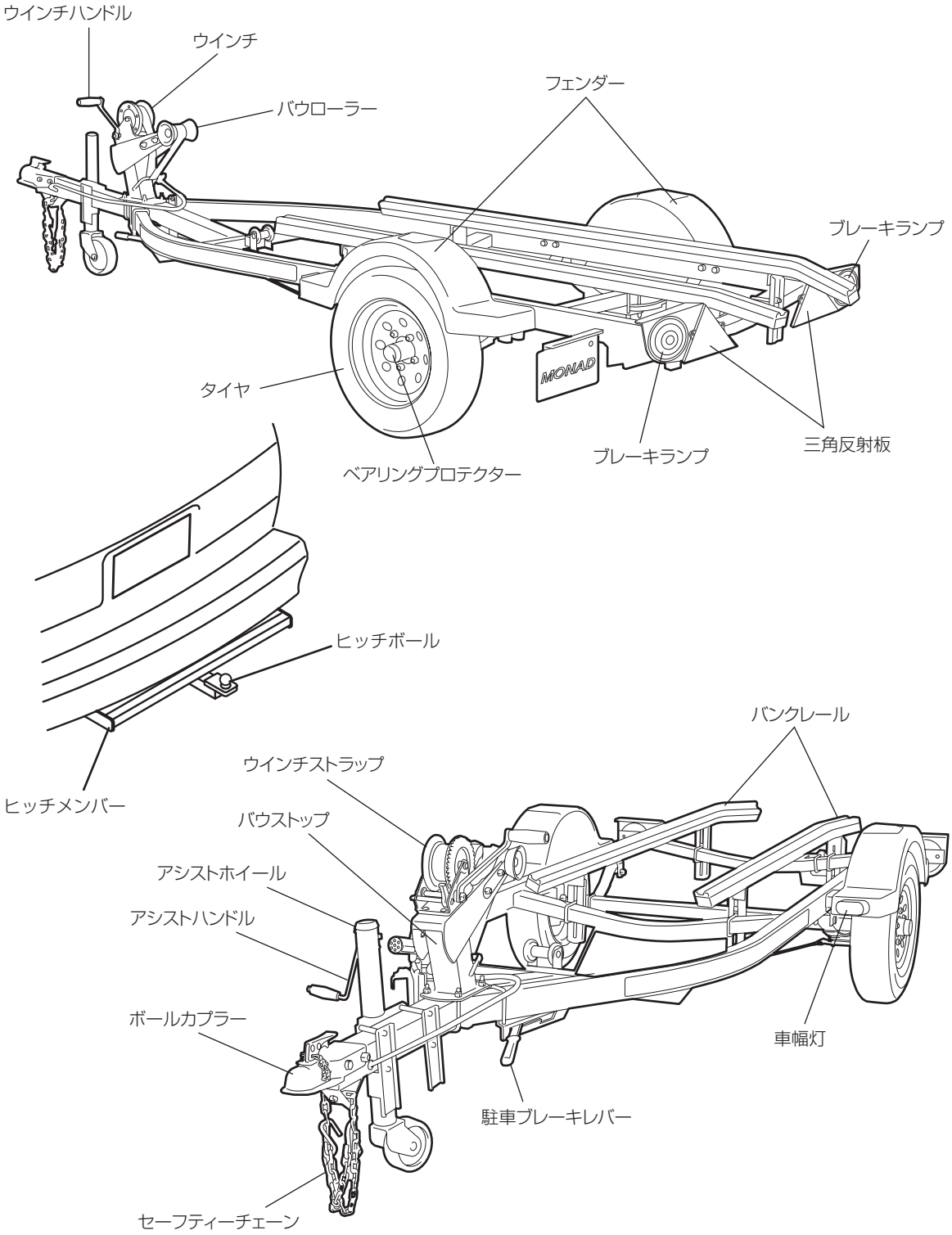
☆牽引装置の取付部・ボール等に異常がないか点検して下さい。
☆ボールとボールカプラーは同じサイズのものを使用して下さい。
（このトレーラーは2インチのボールです）。
☆連結時はボールカプラーのロックピンを差し込んで下さい。
☆安全チェンはたすきがけに連結して下さい。
☆灯火類の確認をして下さい。
☆ボート・積荷はしっかりと固定して下さい。
☆トレーラーの積高は最大積載量を超えないで下さい。
☆積荷が前後、左右に偏よらないようバランス良く積んで下さい。
☆トレーラージャッキの収納を確認して下さい。
☆クリップボルト、ベアリングに異常はないか点検して下さい。
またベアリンググリスは常に一杯に充填して下さい。
☆ブレーキは解除していますか。安全運転で走行して下さい。
☆その他取扱説明書を良く読んで安全走行を心がけて下さい。

④ **危険** ベルトを引き出す時、ハンドルはカラ回りします。

⑤ ⚠ **タイダウンベルト**を必ず掛けてください。

■ 各部の名称

トレーラー各部の名称を示します。



2. 運転前の準備

このセクションでは、積載するマリンジェットに合わせて各部のセッティングを行なう方法と牽引車・トレーラー双方の点検項目を説明しています。
トレーラーを使用する前に必ず一度お読みになって確認してください。

■ 牽引車の点検

連結を行なう前に、必ず牽引車について以下の点検を行なってください。

1 日常点検

牽引車は一般車両ですので、日常点検を行なってください。日常点検の方法などは巻末の点検整備基準の日常点検をご覧になってください。

2 ヒッチメンバー・ヒッチボールの点検

ヒッチメンバーについて次のことを点検してください。

- ●外から見て曲がりがないこと。
- ●ヒッチメンバーを揺すってみてガタがないこと。
- ●車両との取り付け部を点検し、亀裂やゆるみなどがないこと。

ヒッチボールについて次のことを点検してください。

- ●ヒッチメンバーとの取り付け部にガタやゆるみがないこと。
- ●ヒッチボールに変形がないこと。
- ●ヒッチボールにグリースが薄く塗布されていること。

注意

ヒッチボールのグリスアップは確実に行なってください。グリスが切れますと異常摩耗や破損の原因となります。

電線カップリング接続後、牽引車のヒューズが切れる等の不具合が発生した場合、牽引車ご購入のディーラーへご相談ください。

■ トレーラーの点検

連結を行なう時に、必ずトレーラーについて以下の点検を行なってください。

1 外回りの点検

トレーラーのまわりを一廻りして次のことを点検してください。

- ●トレーラーに傾きがないこと。
- ●メインフレームなどの曲がり、変形などがないこと。
- ●灯火類の破損・球切れがないこと。
- ●タイヤの傷、変形がないこと。
- ●走行時に落下しそうなものは積載されていないこと。

2 タイヤ・ホイールの点検

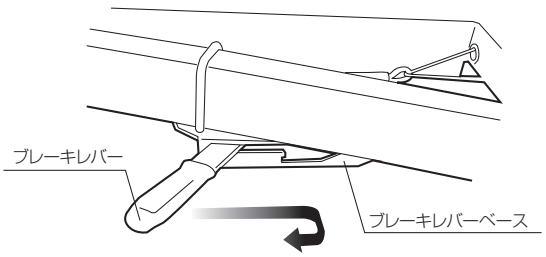
タイヤ・ホイールについて次のことを点検してください。

- ●タイヤ･ホイールに傷､変形などがないこと。
- ●揺すってみてガタやホイールナットの緩みがないこと。
- ●タイヤの空気圧が規定値以上あること。（3.0kgf/cm^2）
- ●タイヤの溝が規定値になっていること。（1.6mm以上）
- ●タイヤが偏磨耗していないこと。

3 駐車ブレーキの点検

駐車ブレーキについて次のことを点検してください。

- ●駐車ブレーキを引き、トレーラーを軽く動かし、車輪がロックされること。
- ●駐車ブレーキを解除し､トレーラーがスムーズに動くこと。
- ●ブレーキワイヤーに摩耗及び切損がないこと。
- ●駐車ブレーキレバーの操作について
  図のようにブレーキレバーを後方に引き、ロック位置に引っかかるようにレバーを下に下げてください。当ブレーキシステムはタイヤを押さえる構造のため、万一タイヤのパンク時には、制動力が得られません。安全の為にタイヤ止め等を併用してください。



⚠警告

駐車ブレーキレバーを引く時は、リターンスプリング及びタイヤの空気圧によりレバーを戻そうとする力がかかっています。
途中で手を離しますと急激にレバーが戻り危険です。ブレーキレバーを操作中は必ずロック位置に固定するまでブレーキレバーから手を離さないでください。

駐車ブレーキは出荷時（新品）に調整されていますが、ブレーキパッドやタイヤの摩耗、ブレーキワイヤーの伸び等で効きが悪くなった場合、ターンバックルでブレーキワイヤーの張りを調整してください。
調整後は必ずブレーキレバーを戻した時、パッドがタイヤに当たっていないことを確認してください。

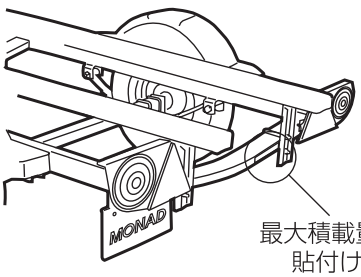
■ 積載物について

⚠警告

積載物（マリンジェット、エンジン、燃料、水、オプション等）の合計重量はトレーラーの最大積載量を超えてはいけません。過積載は大きな損傷や事故の原因となります。

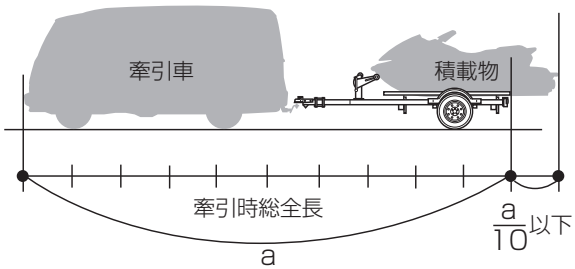
●本書5ページのコーションラベル内容表を参考に下記の条件を満たすマリンジェットが積載可能です。
・マリンジェットの総重量がトレーラーの最大積載量以下である。
※最大積載量は**トレーラー車検証**または**トレーラー本体の後方フレーム**（図1参照）へ記載してあります。

図1



・積載物がトレーラーの全幅よりはみ出していないこと。
・トレーラー後方への積載物のはみ出しは、トレーラー牽引時の牽引車を含めた総全長の1/10以下である。（図2参照）

図2



■ セッティング

トレーラーのセッティングは、適合性に大きく関係し、牽引車のヒッチボールにかかる重量にも関わるため、トレーラーの牽引に大きな影響を与えます。

⚠警告

牽引車のヒッチボールにかかる重量が不適正な場合、連結部の破損や牽引車の蛇行によるコントロール不能等、大きな損傷や事故を招くことがありますので、必ず適正なセッティングをおこなってください。

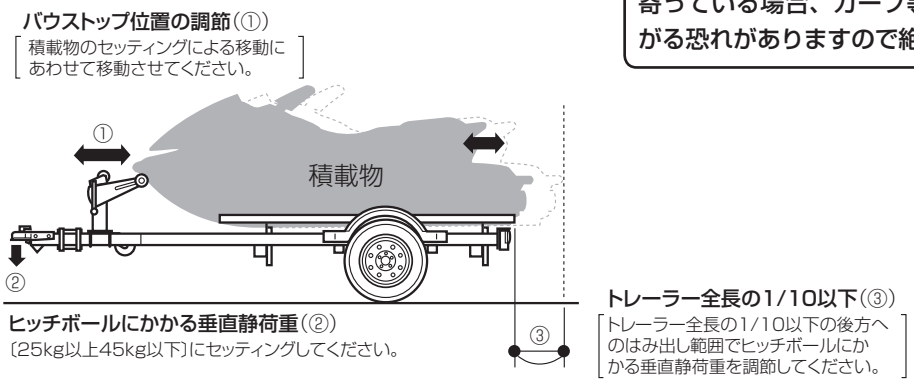
●バンクレールの幅をマリンジェットの船底形状に合わせます。

注意

マリンジェットが車軸・フレームと接触していないか確認してください。また、走行中はリーフスプリングでフレームが上下します。その位置も考慮してください。

●下記の条件を満たしたセッティングをおこなってください。（図3参照）

図3



⚠警告

トレーラーの中心より積載物が左右どちらかに片寄っている場合、カーブ等で横転し、事故につながる恐れがありますので絶対にしないでください。

3. 使用方法

このセクションでは、トレーラーを使用するときの手順を説明しています。
牽引車との連結やマリンジェットの上下架、運転上の注意点などトレーラーを使用する上で重要な情報が記載されています。一通りお読みになってから作業するようにしてください。

■ 牽引車との連結

牽引車との連結を行なうときは、金属部などでのけがを防ぐ為に手袋をしてください。また、手袋をすることでグリースなどの汚れを防ぐこともできます。

1 牽引車とトレーラーを移動する。

牽引車とトレーラーを連結しやすい位置に移動します。

⚠警告

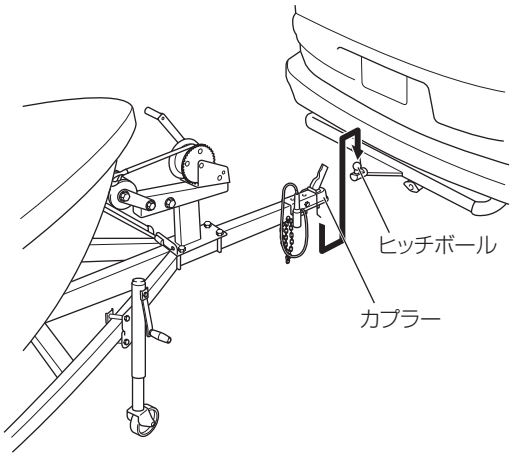
連結作業は必ず平らなところで行なってください。

2 ヒッチボールにカプラーをのせる。

駐車ブレーキを解除してからトレーラーを移動し、牽引車のヒッチボールにトレーラーのカプラーをのせます。

⚠警告

- **金属部などでのけがの恐れがありますので、必ず手袋を着用してください。**
- **手・髪の毛・衣服を挟まないように注意してください。**

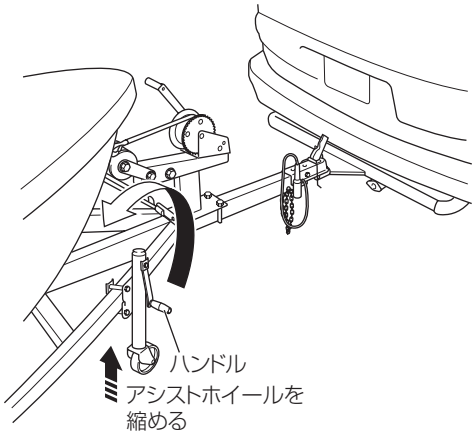


3 アシストホイールを縮める。

アシストホイールのハンドルを反時計回り方向に回し、アシストホイールをハンドルが止まる位置まで完全に縮めます。

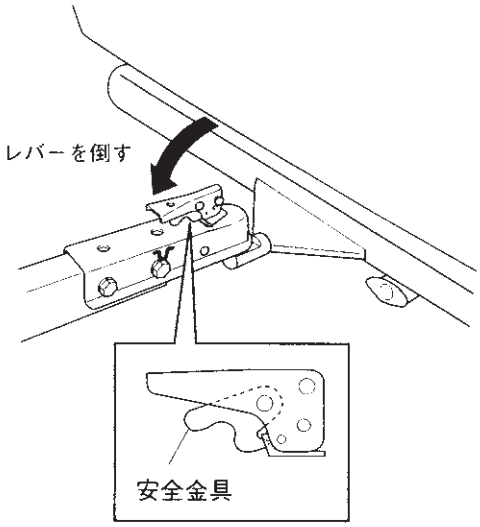
⚠警告

アシストホイールを下ろしたままですと、路面に接触し事故の原因となることがあり大変危険です。必ず完全に上げておいてください。



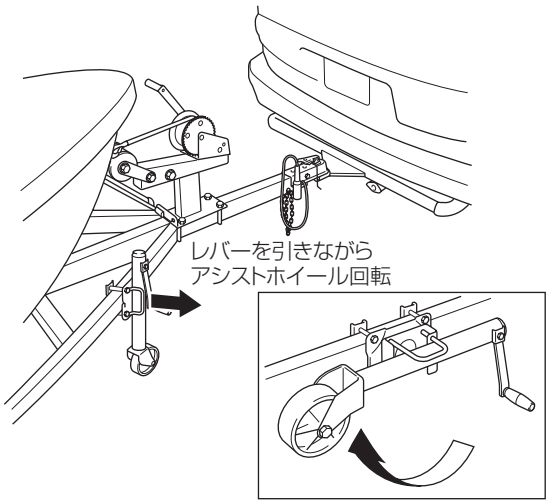
4 カプラーをロックする。

レバーを倒し、安全金具をはめ込みカプラーをロックします。



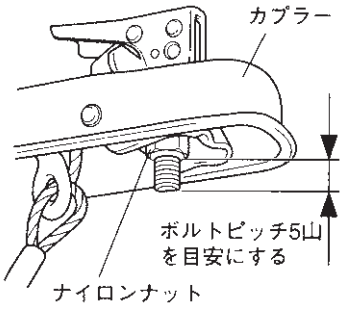
5 アシストホイールを収納する。

レバーを引きながら、アシストホイールを水平まで90度回転させ、ロックし収納します。



6 連結を確認する。

メインフレームを持って連結部を上下に強く揺すり、ヒッチボールが完全にカプラーにはまっていることを確認します。また、カプラーの裏側のナットが緩んでいないことも必ず確認します。



⚠警告

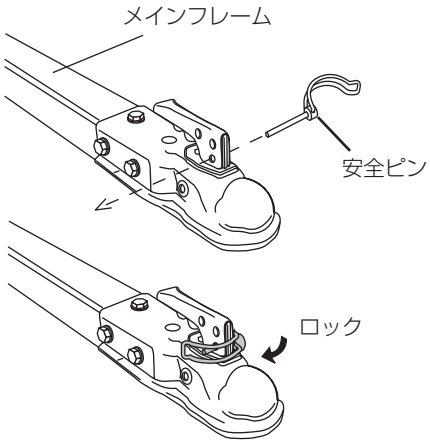
ヒッチボールが完全にカプラーにはまっていないと、走行中はずれることがあり危険です。必ず上下に強く揺すって完全にはまっていることを確認してください。

注意

カプラー裏のナットを締込みすぎるとトレーラー側カプラーがスムーズに回転せず、牽引車側ヒッチボール脱落の原因となりますので十分注意ください。

7 安全ピンをロックする。

安全ピンをレバーのピン用孔に通し、ロックします。

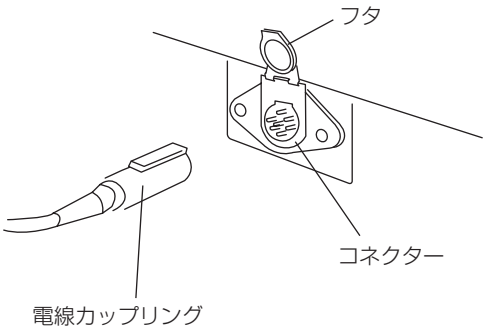


⚠警告

安全ピンは必ずロックしてください。

8 電線カップリングを接続する。

トレーラーの電線カップリングを牽引車のコネクターにしっかり差し込んでください。
プラグとソケットの端子部分に水や異物等が付着していたら、ウエス等で除去してください。



注意

配線プラグを抜差しする際は、コードを持たないでください。コネクターのフタが電線カップリングの抜け止め金具になっているので、コネクターのフタを持ち上げ、電線カップリングを持って行なってください。

9 安全チェーンを取り付ける。

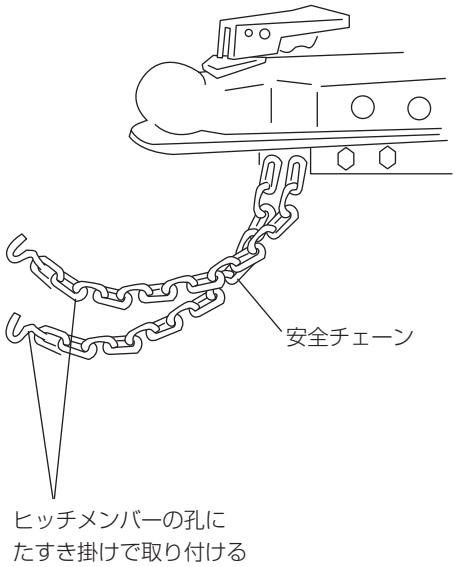
安全チェーンのフックを牽引車のヒッチメンバーにある孔に**たすき掛けで取り付けます。**
チェーンが路面にする場合や、短い場合は、トレーラー側のチェーンを調整します。

注意

必ず2本のチェーンのフックをヒッチメンバーにある孔に取り付けてください。
このチェーンを他の用途に使用しないでください。

⚠警告

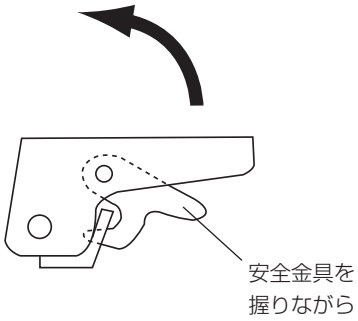
事故防止のためチェーンフックは必ず牽引車側ヒッチメンバーの所定の場所に固定してください。



連結終了後、レバー、安全ピン、電線カップリングの接続、安全チェーンの取り付けを確認し、確実に取り付けられていることを確認します。
その後、牽引車のエンジンをかけ、ブレーキ・ウインカーなど灯火類が正常に動作することを確認します。

■ トレーラーのはずしかた

トレーラーをはずすときは、連結と逆の手順で行ないます。
ただし、カプラーのロックをはずすときは、レバー内の安全金具を握ってレバーを起こします。



■ マリンジェットの水面への降ろしかた（下架）

⚠警告

必ず牽引車と連結した状態で行なってください。

1 水面に降ろす前の確認をする。

マリンジェットを水面に降ろす前に次のことを確認してください。

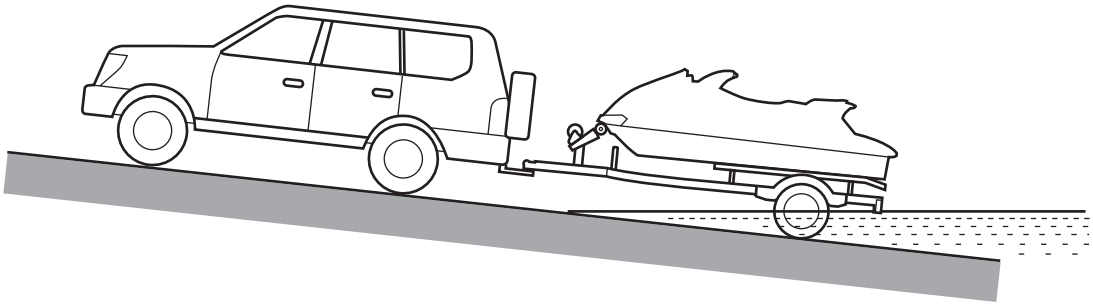
●スロープの幅、長さ、傾斜が下架に充分なものであるか。
●進水するところの水深は適正か。
●波、水の流れは問題ないか。
●風向き、風速は大丈夫か。
●タイダウンストラップははずれているか。

2 下架する位置（スロープ）に移動する。

トレーラーをスロープに移動し、下架するところまでバックします。

⚠警告

マリンジェットに人を乗せたまま、下架しないでください。



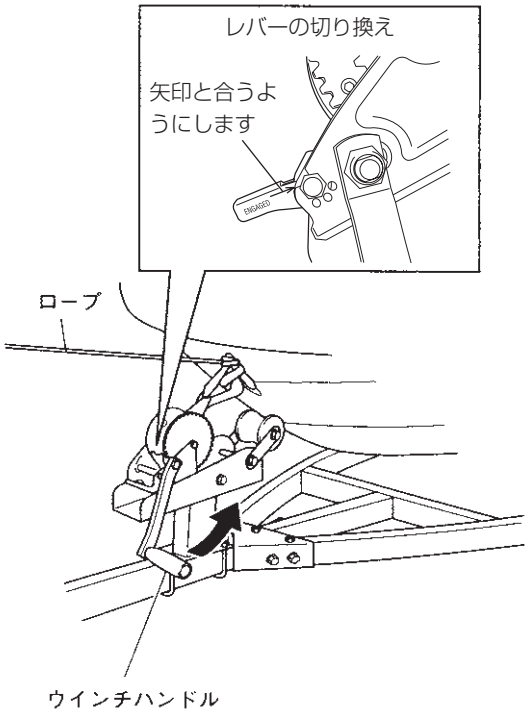
3 マリンジェットを下架する。

バウアイにロープを取り付け、ウインチのレバーを下架状態にし、ロープで補助しながら静かに水面に降ろします。

⚠警告

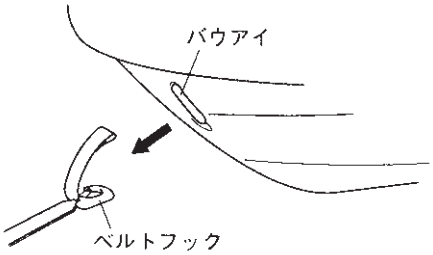
- **ロープで支えながら静かに下架してください。ロープで支えないと、マリンジェットが勢いよく進水すると共に、ウインチハンドルが勢いよく回転して危険です。**
- **マリンジェットの後方に立たないでください。危険です。**
- **ウインチは、マリンジェットの上下架以外には使用しないでください。**

ウインチのロックを解除しにくいときは、ウインチハンドルを回しながら解除します。



4 ウインチのベルトフックをはずす。

バウアイからウインチのベルトフックをはずします。



5 マリンジェットを係留する。

マリンジェットを係留します。

6 ウインチベルトを巻き上げる。

ウインチのレバーを上架状態にし、ウインチハンドルを時計方向に回してウインチベルトを巻き上げます。さらにトレーラーを駐車場に移します。

■ マリンジェットの積載（上架）

1 牽引車と連結する。

9〜12ページの方法で連結します。

⚠警告

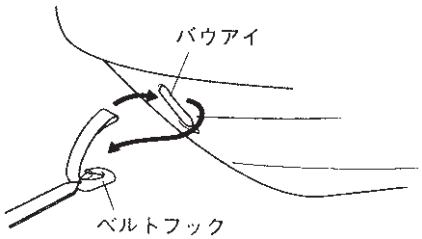
マリンジェットの積載は、必ず牽引車と連結した状態で行ってください。

2 マリンジェットとトレーラーの位置をそろえる。

マリンジェットはトレーラーのバンクレールの中央に積載するため、マリンジェットとトレーラーの位置が直線的に並ぶように位置をそろえます。

3 ウインチベルトを引き出す。

ウインチのレバーを下架状態にし、ベルトを引き出します。
ウインチのロックを解除しにくいときは、ハンドルを回しながら解除します。

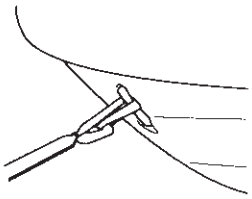


⚠警告

ウインチベルトを引き出すとき、ウインチハンドルが回転して危険です。近づかないでください。

4 ウインチのベルトフックを掛ける。

バウアイにウインチベルトを通し、先端のベルトフックに掛けます。

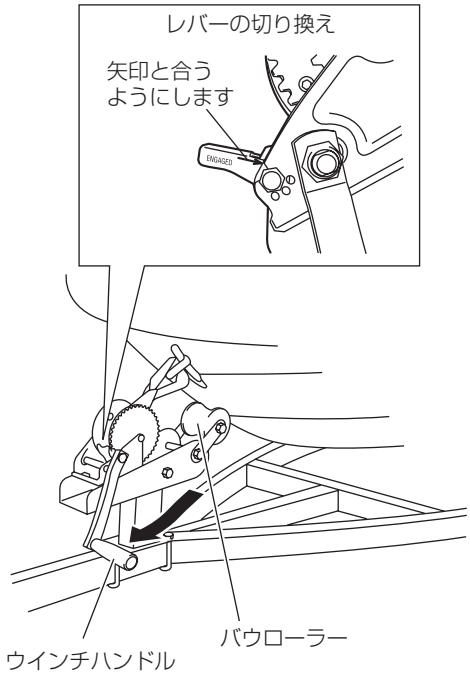


5 レバーを上架状態にする。

ウインチのレバーを上架状態にします。

6 ウインチを巻き上げる。

マリンジェットを支えながら、ウインチハンドルを時計方向に回し、ウインチを巻き上げます。マリンジェットがスロープレールの中央に載るように、ウインチを巻き上げながら調節してください。ウインチを巻き上げる時に、ベルトがバウローラーの中央になるよう調整し、巻き上げます。



⚠警告

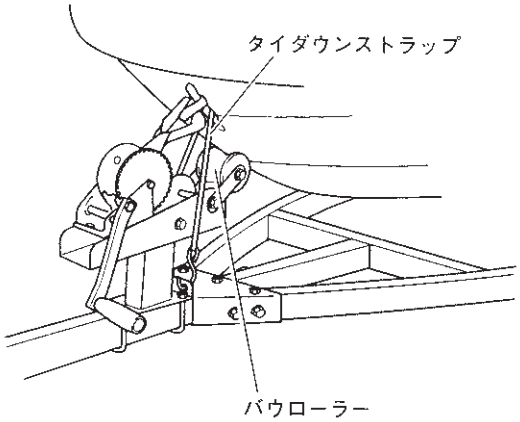
- **マリンジェットに人を乗せたまま上架しないでください。**
- **マリンジェットのエンジンを停止してから上架してください。**

⚠警告

マリンジェットの後方に立たないでください。危険です。

7 積載位置の確認。

マリンジェットのバウがバウローラーに当たるまでウインチを巻き上げます。ウインチを巻き上げたら、マリンジェットがトレーラーの中央に載っているか確認します。
もし、マリンジェットが傾いている場合は、前項「マリンジェットの水面への降ろしかた（下架）」を参考にマリンジェットを一度降ろし、再度積載を行なってください。



⚠警告

マリンジェットが傾いているとバランスが悪くなり、落下や走行が不安定になる原因となります。

8 マリンジェットを固定する。

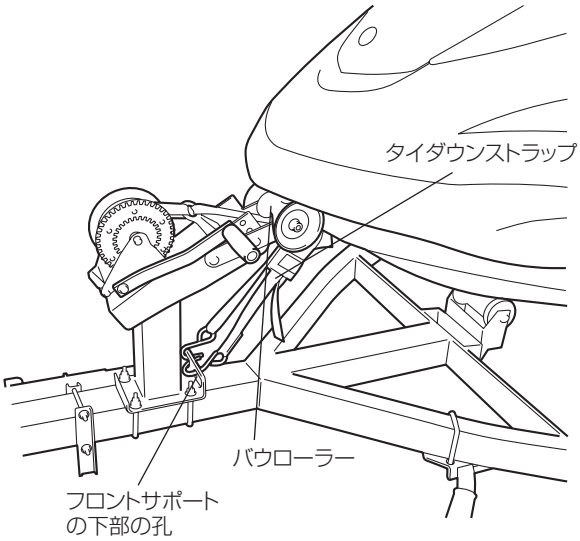
タイダウンストラップなどを使い、マリンジェットの前後を固定します。
固定は必ず前側、後ろ側の各2箇所（計4箇所）で行なってください。

⚠警告

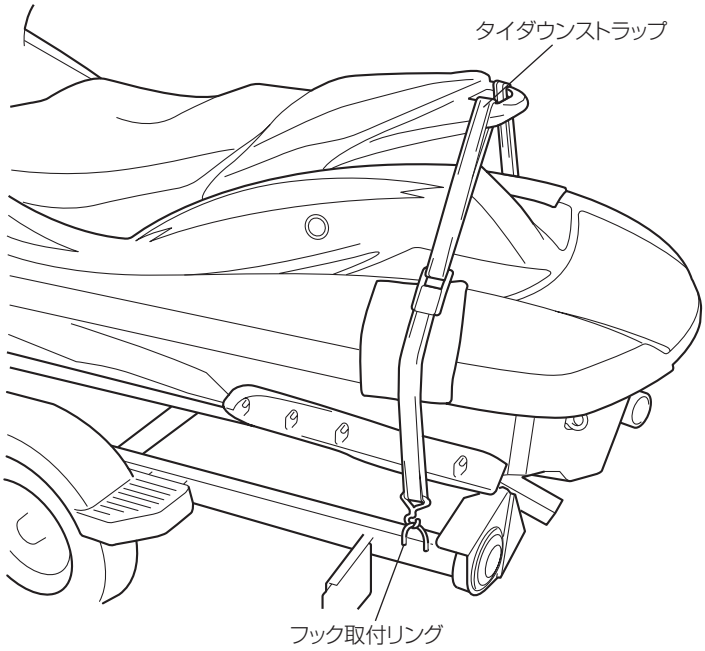
マリンジェットは必ず固定してください。固定しないと落下の危険があります。
次ページのようにタイダウンストラップなどを使って、必ず前側、後ろ側の各2箇所（計4箇所）で固定してください。
タイダウンストラップは、フレームに直接引っかけないでください。

■ タイダウンストラップの締め付け方

● 前側の固定



● 後側の固定



■ トレーラーの運転上の留意点

トレーラーの運転についての注意点とドライブテクニックを紹介します。

● 運転上の留意点

トレーラーは通常の自動車を運転する以上に慎重な操作と先を見越した予測が重要となります。
自動車だけで運転する場合に比べ、トレーラーの重量分重くなるわけですから、制動距離も延びますし、走行特性にも少なからず影響がでます。それらを認識した上で慎重な運転を心掛けてください。
以下にトレーラー牽引時の運転で特に注意していただきたい事柄を示します。

⚠警告

〔走行時〕

●スピードはひかえめに

高速道路での最高スピードは80km/hですが、路面状況や天候によって余裕を持った安全なスピードで走行してください。また、未舗装では窪みを避け、徐行運転（10km/h以下）で走行してください。

●車間距離を十分にとる。

牽引車・トレーラーを含めて重量が重くなっていますので、ブレーキやハンドル操作が余裕を持って行なえるように車間距離は十分にとってください。

●急発進・急停車は厳禁。

急発進･急停車では､ヒッチメンバーやヒッチボールに負荷がかかり､破損の原因となることがあります｡また､マリンジェットを固定したタイダウンストラップにも負担がかかり、落下や破損の原因ともなりかねません。

●コーナーリング時の内輪差に注意。

コーナーリングでは牽引車とトレーラーの長さを考え、通常より大きめに曲がります。また、曲がる時は、特に歩行者や対向車に注意してください。コーナーリング後も後方確認は常に必要です。

●後方の確認は十分に。

走行中、ときどきトレーラーに積載されているマリンジェットの状況を確認してください。

●急ハンドル厳禁。

走行時急ハンドルを切ると、トレーラーが牽引車を押し出し、横滑りをすることがあります。一般にジャックナイフ現象といいますが、コントロール不能で大変危険な状況になりますので、ハンドル操作時は特に注意してください。

●下り坂ではエンジンブレーキを使う。

総重量が重くなっていますので、下り坂などではブレーキを使いすぎると、フェード現象でブレーキのききが悪くなることがあります。下り坂ではギアを下げエンジンブレーキを使うようにしてください。

〔バック走行時〕

●バックは牽引車とトレーラーを一直線に並べてから行なう。

牽引車とトレーラーが一直線上に並んでいないと、意図したところへバックさせることが難しくなります。

〔駐車時〕

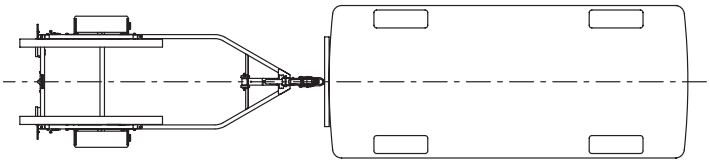
●駐車時はパーキングブレーキを掛ける。

駐車時は牽引車のパーキングブレーキとトレーラーの駐車ブレーキの両方を掛けてください。

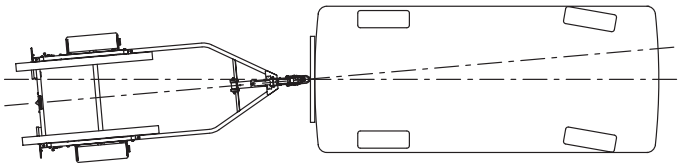
● バック時のハンドル操作例

トレーラーでは、通常の自動車でのバック時に比べ、ハンドル操作に少しテクニックが必要となります。以下に代表的なハンドル操作例を紹介します。

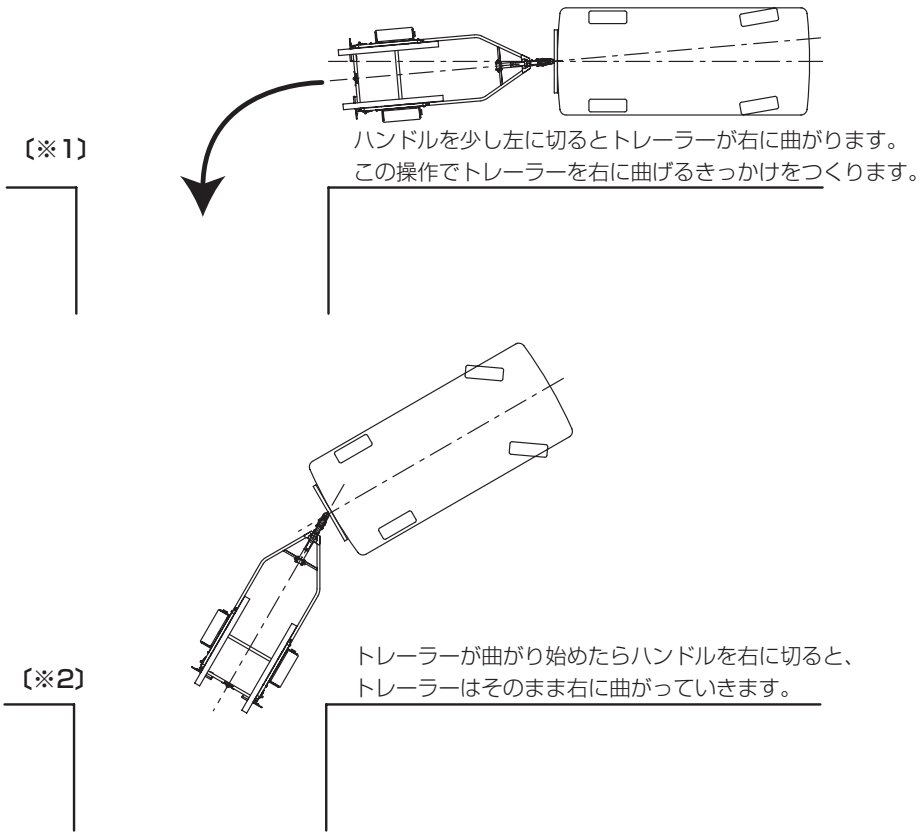
まっすぐにバックしようとする場合



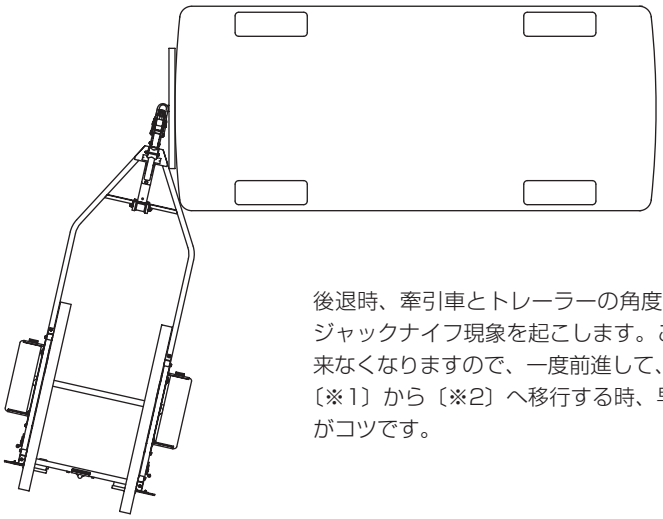
トレーラーが少し右に曲がってきた場合は、ハンドルを少し右に切って全体を一直線上に補正します。まっすぐバックするコツは蛇のようにくねくね曲がってバックする感覚です。くねくねが大きくなると補正できませんから少しでも曲がったらすぐに補正することがコツです。



バックで車庫入れする場合



ジャックナイフ



後退時、牽引車とトレーラーの角度が大きくなりすぎたとき、ジャックナイフ現象を起こします。この時これ以上の後退は出来なくなりますので、一度前進して、やりなおしてください。〔※1〕から〔※2〕へ移行する時、早めにハンドルを戻すことがコツです。

■ 駐車場、有料道路の利用

トレーラーは、一般乗用車とは駐車場や有料道路での扱いが異なります。
一般乗用車用の駐車場では駐車スペースが自動車一台分になっていますので、ほとんどの場合トレーラーの駐車ができません。また、トレーラーが駐車できる駐車場の場合でも多くの場合、駐車料金が異なります。
有料道路の場合も、通行料金が一般乗用車とは異なります。
駐車料金や通行料金など、トレーラーの場合の料金を明記しているところは多くありません。そのほとんどが、乗用車よりも高くなりますが、大型車の料金を請求したり、乗用車＋αの料金を請求したり、トレーラー用の料金が決まっていないのが現実です。
このように、牽引する車両と牽引されるトレーラーによって料金は変わってきます。高速道路の場合、料金については日本道路公団のハイウェイガイドなどで確認することができます。
なお、ETCをご使用の場合は、ETC車載器を牽引することが「有る」とセットアップする必要があります。
ETC車載器ご購入店へご確認ください。

4. メンテナンス

このセクションでは、トレーラーの性能を維持していくために必要なメンテナンス方法や定期点検・整備に関する情報、さらにパンク時や灯火の電球切れ時の修理方法を説明しています。

■ 日常の手入れ

トレーラーの性能を維持するためには、乗用車の場合と同じように日常のお手入れが重要です。
特に使用後は、必ず手入れを行ってください。

● 洗車

洗車で各部の汚れを落としておいてください。特にマリンジェットの進水時にトレーラーを水（または海水）につけた場合は、他の部分より大量の水を使い洗い流しておきます。（特にリーフスプリング部、タイヤ廻り、ウインチ廻りなど）
洗車方法は、一般の乗用車の場合と同じです。

注意

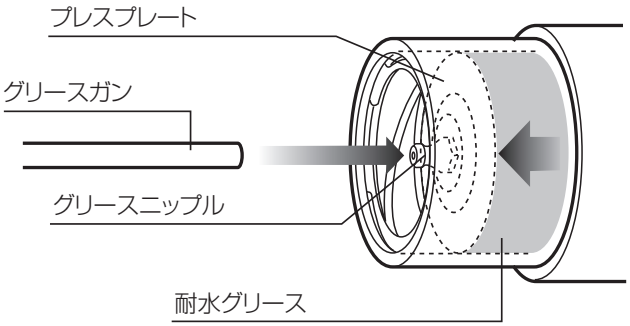
十分な洗車をしないと、錆による不具合が発生します。

● グリース塗布

トレーラー使用後は、ハブ等の駆動部分のグリースアップをしてください。
ハブへのグリースアップの方法は、グリースアップの項をお読みください。
また、ボルトなど金属部で錆が発生しやすい部分に防錆スプレーを塗布しておいてください。
推奨グリース：グリーススプレー（耐水性）（部品番号：90790-74009）
推奨防水スプレー：マリンガード（部品番号：90790-74036）

●ベアリングプロテクター装着車のグリースアップ方法

ベアリングプロテクター装着車は下図のようにグリースが減ってきたら、グリースガンでグリースニップルから耐水グリース（ソレックス社製）を注入してください。またプロテクター及びベアリング部に水が入りグリースが変色したら、グリースを全部入れ換えてください。



トレーラーは、自動車と異なりマリンジェットの進水等により水、海水に接することが多いので、駆動部分（ハブ、ウインチ等）へのグリースアップは大変重要です。
定期点検とグリースアップを怠らないようにしてください。

⚠警告

ハブのグリースアップをしないまま走行しますとハブベアリングが焼きつき大事故につながる恐れがありますので、グリースが減っていないか定期点検をおこなうと共にグリースアップをおこなってください。

注意

水はどんな小さな隙間を通じても滲んでくる性質があります。暖まったハブが冷水に浸かった時、ハブ内の空気圧が低下し、シールを通じて水を吸い込む可能性があります。
進水時のホイールベアリングへのダメージを未然に防ぐ為に使用前には必ずホイールの緩み、ガタの点検をしてください。また、異常があった場合は、最寄の弊社販売店へご相談ください。

● 灯火類の手入れ

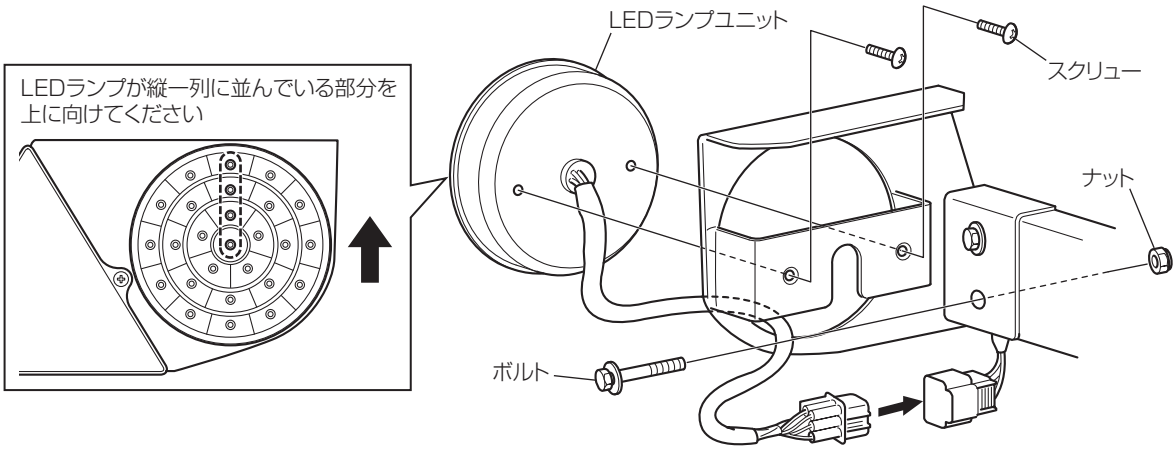
灯火は電球切れがないことを確認したあと、レンズの部分を柔らかい布で拭いておきます。
また、ケーブルの接続部（牽引車両とケーブルの先端）に防錆スプレーを塗布しておくと接触不良を防ぐことができます。

■ LEDランプユニットの交換

灯火ランプの破損等による交換は下記の方法で取り外してください。

● 灯火ランプの交換

①ボルトを取り外します。（下側のみ）
②コネクターを引き出し、接続を外します。
③スクリュー 2本を取り外し、LEDランプユニットを交換します。



④取付方法は、取り外しと逆の手順で行なってください。

注意

・LEDランプやランプユニットステー取付時に、配線を挟んでしまうと、正常に点灯しなくなる場合がありますので、配線を挟まないように取り付けてください。また、走行による振動で配線がフレーム等にこすれないように、必ず固定してください。
・スクリューは必ず付属品を使用してください。付属品以外を使用すると水が浸入し、LEDランプユニットが破損する恐れがあります。

■ タイヤの取り外し、取り付け

タイヤがパンクした場合は、次の手順でタイヤの取り外し、および取り付けをしてください。

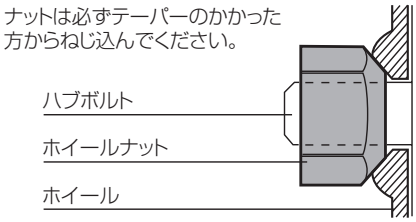
1 輪止めをする。

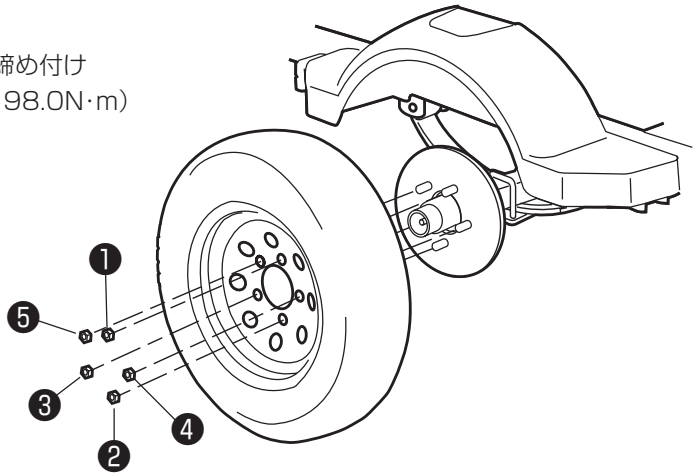
2 ジャッキアップしてホイールナットをはずす。

●ジャッキの種類に応じて、2種類のジャッキアップポイントのどちらかを選んでください。（下図参照）
●ホイールナットを外す。
　ホイールナットを緩めてジャッキでフレームをあげてからホイールナットを外してください。

3 ホイールナットを取り付ける。

ホイールナットを下図のように番号順に締め付け
トルク900～1000kgf･cm(=88.2～98.0N･m)
で締め込んでください。



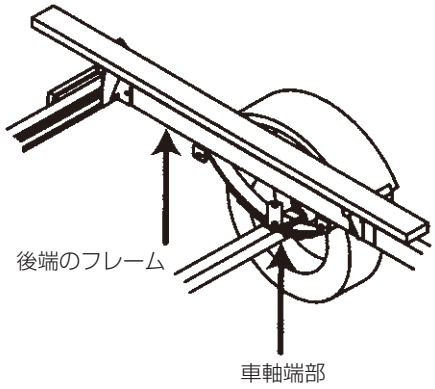


⚠警告

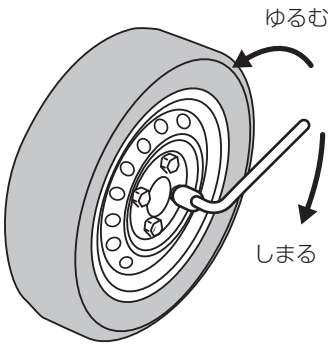
ジャッキアップをしたら、トレーラーの下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れた場合、重大な事故につながる恐れがあり危険です。

⚠警告

ジャッキアップの際は必ず平らな場所にトレーラーを止めて、反対側のタイヤに必ず輪止めをしてください。

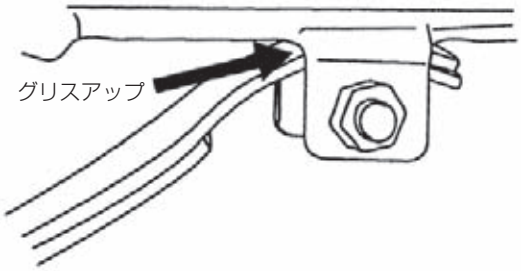


ジャッキアップポイント



■ リーフスプリング部分への給油

リーフスプリング及びスライド部分の水分・異物を除去したあと、グリス・防錆油を塗布・給油してください。



■ シーズンオフ前の手入れ

シーズンオフにはトレーラーの使用回数が減るため、日常の手入れが少なくなりがちです。そこでシーズンオフになる前に日常の手入れに加え、次にあげる手入れを行ない、来シーズンに備えておきます。

- ●洗剤を使い入念に洗車してください。
- ●錆が発生しやすい部分に入念に防錆スプレーを塗布しておきます。
- ●整備工場などに各駆動部分のグリースアップを依頼してください。

■ シーズンオフ中の保管

シーズンオフでもときどきトレーラーを動かすことがより良い状態でトレーラーの性能を維持するためのポイントです。なるべく動かすようにしてください。
また、シーズンオフの保管では、次のことに特に注意してください。

- ●屋外で保管される場合は、水はけの良いところで、タイヤの下にレンガ1枚分くらいの高さをとり、輪止めをし、カバーを掛けてください。
- ●タイヤやサスペンションに負荷がかからないようにするには、トレーラーをジャッキアップし、ブロックなどをメインフレームの数ヶ所にあてがいトレーラー全体を浮かせて保管します。

■ 定期点検整備

トレーラーは定期的な点検整備を必ず受けなければなりません。P.30の点検整備基準を確認してください。
点検整備を受けたときは、整備した工場で本取扱説明書の巻末にある「点検整備記録簿」に記入をしてもらってください。

■ 車軸部の点検整備

⚠警告

- **マリンジェット用トレーラーは、水に浸けて使用する場合がありますので、日常点検整備を必ず実施してください。特に車軸部のベアリング破損は重大事故につながる可能性があります。**
- **異常が確認された場合は、速やかに分解点検整備を販売店へ依頼してください。**
- **日常点検整備で異常が見られない場合でも、シーズンインもしくは年に1回、車軸の分解点検整備を実施してください。**

1 日常点検整備

①運行前に車軸廻りを目視で点検し、ハブ内部に水が入った形跡がないか確認をします。
②運行前に車輪を揺すってガタがないか確認します。

③運行直後に車軸部（ハブ）が異常な熱（50℃以上）を帯びていないか確認をします。
④海水に浸かった場合は、必ず真水で洗浄してください。

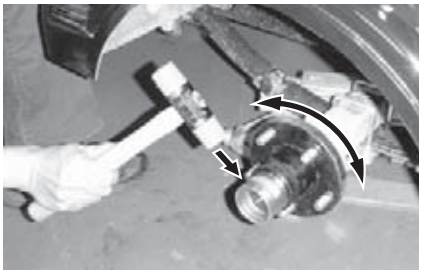
2 分解点検整備

●分解

①マリンジェットを積載している場合は降ろします。
②車輪を取り付けているナットを1/4回転程緩めてからジャッキアップします。
③車輪を外します。
④ベアリングプロテクターを外します。

要　点

下図のように、ベアリングプロテクターの先端部外周をソフトハンマーで全周にわたって軽く叩くと徐々に外れます。
車輪を装着したままでは、ソフトハンマーが垂直に打てず取り外しできない場合があります。

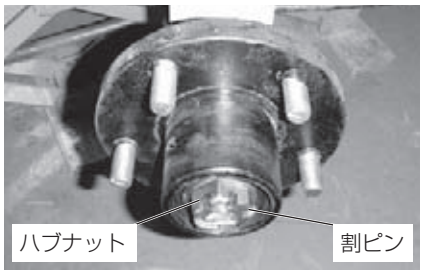


⑤充填されているグリスの色を確認します。

要　点

茶色や黒色に変色している場合は異常です。

⑥割ピンを外してハブナットを外します。



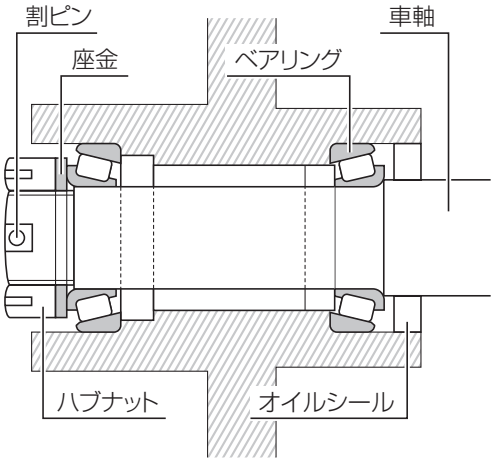
⑦ハブを車軸から外します。

●点検

⑧各部の点検をします。

- グリスに変色・変質がないか。
- オイルシールのリップ面に損傷はないか。
- 車軸のオイルシール摺動面に損傷はないか。
- ベアリングのローラーやレースに損傷や変色はないか。

⑨損傷などの異常が見られる部品は交換します。



●組み立て

⑩ハブに、ベアリングとオイルシールを取り付け（アッセンブリ）ます。

要　点

ベアリングとシールに、充分なグリスを塗布します。

⑪車軸にグリスを塗布して、ハブアッセンブリを取り付けます。

⑫車軸にナットを取り付けます。

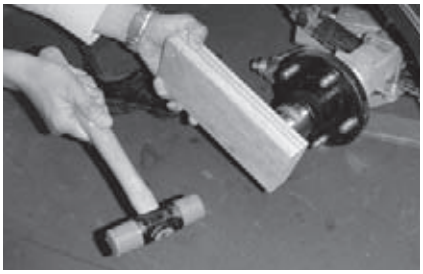
要　点

1.ナットを、450 ～ 500kgf･cm（=44.1 ～ 49.0N･m）のトルクで締め付けます。
2.ハブを10 ～ 20回転させてベアリングを馴染ませます。
3.ナットを1/6回転緩めて、ハブが軽く回せることを確認してから、割りピンを取り付けます。

⑬ベアリングプロテクターを取り付けます。

要　点

必ず木材などを介して垂直に打ち込んでください。



⑭プロテクター中央部のニップルからグリスを注入します。
⑮車輪を取り付けます。
⑯ジャッキダウンします。
⑰車輪取り付けナットを規定トルクで締め付けます。
締め付けトルク900 ～ 1,000kgf・cm
（=88.2 ～ 98.0N・m）

5. 付　録

このセクションでは、トラブルが起こった場合の処理方法やトレーラーの法令に関する情報を記載しています。
また巻末には「定期点検整備記録簿」が折込まれています。

■ 故障かな？と思ったら

トレーラー走行中、調子が悪かったり、異音がする場合などは、すぐに安全な場所に停車し、次のことを点検してください。

現　　象	原因および対策
●連結部あたりから異音がする。	●カプラー、ヒッチボールのグリース切れが考えられます。グリースアップを行なってください。 ●ヒッチメンバーの取付けボルトが緩んでいないか確認してください。 ●カプラーの裏側のナイロンナットが緩んでいないか確認してください。
●タイヤ付近から異音がする。	●タイヤの空気圧の点検、タイヤに異物がささっていないか確認してください。 それ以外の場合は、直ちに、お近くのサービス工場にて、点検してください。
●ウィンチや積載したマリンジェット付近から異音がする。	●マリンジェットの固定の不備が考えられます。タイダウンストラップ、ウィンチベルトの緩みがないかチェックし固定し直してください。また、タイダウンストラップで固定しても走行中に緩むことがありますので、ときどき緩みをチェックしてください。
●走行が不安定。	●マリンジェットの積載位置が悪い。積載位置が正しいか確認してください。 風が強い場合や路面が悪い場合も走行が不安定になる場合があります。そのような場合は、スピードをひかえめにし、慎重に運転してください。

■ 法令上の遵守義務

トレーラーは乗用車と同じで車両として扱われます。したがって一般公道を走行するには、車両としてのルールを守らなければなりません。
ここでは、車両として法律で義務づけられている部分の中で特に注意していただきたいことについて説明しています。

①使用者は、1日1回出発前に省令で定められた方法でトレーラーを点検しなければなりません。
（運行前点検）
②使用者は6ヶ月間ごとに省令で定められた基準にしたがって、点検しなければなりません。
（不良箇所を発見したら期間に関わらず整備しなければなりません）
また、整備・点検をしたら定期点検記録簿に記載し、2年間保管しなければなりません。
③使用者は省令に定められた基準にしたがってトレーラーを定期的に点検しなくてはなりません。
（不良箇所を発見したら整備しなければなりません）また、点検整備をしたら「定期点検整備記録簿」に記載し、2年間保管しなくてはなりません。
④1年ごとに陸運局長または指定整備事業者の行なう点検を受けなくてはなりません。
⑤牽引車を変更する場合は、陸運支局に届出書（連結検討書）を提出し、許可を受け直さなければなりません。

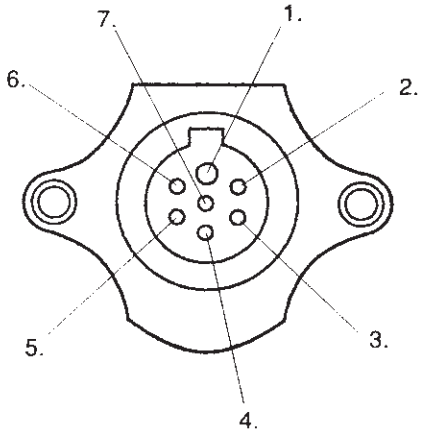
②～⑤については、お近くの「サービス工場」で点検整備してください。

■ 仕　様

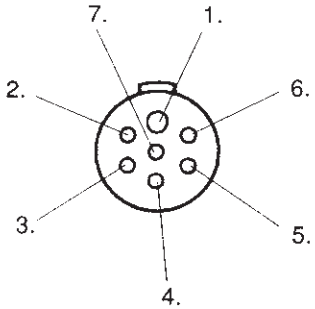
下記は本トレーラーの主な仕様を示します。
※仕様は、改良のため、予告なく変更されることがあります。

	SX-500BK Low	SX-500MJ	SX-350MJ
全長 (mm)	4,280	3,865	3,380
全幅 (mm)	1,660	1,610	1,470
全高 (mm)	700	800	880
軸距 (mm)	1,435	1,415	1,274
車両重量 (kg)	155	145	130
最大積載量 (kg)	500	500	350
トレーラー後端最大はみ出し量 (mm)	428	386	338
サスペンション	重ね板バネ式懸架方法	重ね板バネ式懸架方法	重ね板バネ式懸架方法
タイヤサイズ	205/65-10	145/R12 6PR	145/R12 6PR
タイヤ空気圧 (kgf/cm^2)	3.0	3.0	3.0
ホイールサイズ	10インチ 6J PCD 114.3	12インチ 4J PCD 114.3	12インチ 4J PCD 114.3
カプラーサイズ	2インチ	2インチ	2インチ
使用可能ヒッチメンバー	B・C級以上	B・C級以上	B・C級以上
カプラー荷重	25～45kg	25～45kg	25～45kg
灯火類	12V仕様	12V仕様	12V仕様
電源カプラ	7極	7極	7極

配線コネクター（車側）



配線アダプター（トレーラー側）



7芯

1.	白（WHT）	接地（アース）
2.	—	—
3.	黄（YEL）	方向指示器（ウインカー）左
4.	赤（RED）	制動燈（ストップ）
5.	緑（GRN）	方向指示器（ウインカー）右
6.	茶（BRN）	尾灯・番号燈・車幅燈
7.	青（BLE）	後退燈（バックランプ）白

■ 点検整備基準

●:法定項目、○:メーカー指定項目

点検整備項目			点検整備時期 自家用貨物・自動車等 日常点検	6か月毎	12か月毎	判定基準
制動装置	パーキング	引きしろ		●	●	
	パーキング・レバー	ブレーキのきき具合	●	●	●	
	ロッドおよびケーブル類	緩み、ガタおよび損傷			●	
走行装置	ホイール	タイヤの空気圧	●	●	●	3.0kgf/cm^2
		タイヤの亀裂および損傷	●	●	●	
		タイヤ溝の深さおよび異常な摩耗	●	●	●	残り溝1.6mmまで
		ホイール・ナットおよびホイール・ボルトの緩み		●	●	
		ホイール・ベアリングのガタ **※重要**	○	○	●	
		ホイール・ベアリング・グリス交換 **※重要**			○	
緩衝装置	サスペンション・アーム リーフ・サスペンション	スプリングの損傷			●	
		スプリング取付部の緩みおよび損傷			●	
		スプリングの連結部のガタ			●	
電気装置	電気配線	接続部の緩みおよび損傷			●	
灯火装置および方向指示器		作用	●	●	●	けん引車と連動
車枠および車体		緩みおよび損傷			●	
その他		シャシ各部の給油脂状態		○	●	
トレーラー専用装置	カプラー	機能および損傷	○	○	○	
	安全チェーン	損傷および取付部の緩み	○	○	○	
	アシストホイール	作動および損傷	○	○	○	
	フロントサポート	損傷および取付部の緩み	○	○	○	
	ウインチ	作動および給油	○	○	○	
	バンクレール	損傷および取付部の緩み	○	○	○	

※重要…確認方法はP.25、26をご確認ください。

定期交換部品項目	交換時期 年数 単位:年	走行キロ 単位:千km
ホイール・ベアリング・グリス	1	10

注)交換時期は年又は走行キロどちらか早い方にて交換する。

■ 定期点検整備記録簿

機　種　名		登録番号		車体番号	
使用者または名称			取扱販売店名		

点検年月日	登録完了年月日	点検の結果及び整備の概要	作業の実施者

■ 点検整備記録簿

カ月定期点検整備　平成　年　月　日					
点検整備項目		点検整備時期	6か月毎	12か月毎	判定基準
制動装置	パーキング	引きしろ			
	パーキング･レバー	ブレーキのきき具合			
	ロッドおよびケーブル類	緩み、ガタおよび損傷	―		
走行装置	ホイール	タイヤの空気圧			3.0kgf/cm^2
		タイヤの亀裂および損傷			
		タイヤ溝の深さおよび異常な摩耗			残り溝1.6mmまで
		ホイール･ナットおよびホイール･ボルトの緩み			
		ホイール･ベアリングのガタ			
		ホイール･ベアリング･グリス交換			
緩衝装置	サスペンション･アーム リーフ･サスペンション	スプリングの損傷	―		
		スプリング取付部の緩みおよび損傷	―		
		スプリングの連結部のガタ	―		
電気装置	電気配線	接続部の緩みおよび損傷	―		
灯火装置および方向指示器		作用			けん引車と連動
車枠および車体		緩みおよび損傷	―		
その他		シャシ各部の給油脂状態			
トレーラー専用装置	カプラー	機能および損傷			
	安全チェーン	損傷および取付部の緩み			
	アシストホイール	作動および損傷			
	フロントサポート	損傷および取付部の緩み			
	ウインチ	作動および給油			
	バンクレール	損傷および取付部の緩み			

記事（主な交換部品、測定結果等）	自動車分解整備事業者の氏名又は名称、事業所の所在地 印

■ 点検整備記録簿

カ月定期点検整備　平成　年　月　日					
点検整備項目		点検整備時期	6か月毎	12か月毎	判定基準
制動装置	パーキング	引きしろ			
	パーキング･レバー	ブレーキのきき具合			
	ロッドおよびケーブル類	緩み、ガタおよび損傷	―		
走行装置	ホイール	タイヤの空気圧			3.0kgf/cm^2
		タイヤの亀裂および損傷			
		タイヤ溝の深さおよび異常な摩耗			残り溝1.6mmまで
		ホイール･ナットおよびホイール･ボルトの緩み			
		ホイール･ベアリングのガタ			
		ホイール･ベアリング･グリス交換			
緩衝装置	サスペンション･アーム リーフ･サスペンション	スプリングの損傷	―		
		スプリング取付部の緩みおよび損傷	―		
		スプリングの連結部のガタ	―		
電気装置	電気配線	接続部の緩みおよび損傷	―		
灯火装置および方向指示器		作用			けん引車と連動
車枠および車体		緩みおよび損傷	―		
その他		シャシ各部の給油脂状態			
トレーラー専用装置	カプラー	機能および損傷			
	安全チェーン	損傷および取付部の緩み			
	アシストホイール	作動および損傷			
	フロントサポート	損傷および取付部の緩み			
	ウインチ	作動および給油			
	バンクレール	損傷および取付部の緩み			

記事（主な交換部品、測定結果等）	自動車分解整備事業者の氏名又は名称、事業所の所在地 印

■ 点検整備記録簿

カ月定期点検整備　平成　年　月　日					
点検整備項目		点検整備時期	6か月毎	12か月毎	判定基準
制動装置	パーキング	引きしろ			
	パーキング･レバー	ブレーキのきき具合			
	ロッドおよびケーブル類	緩み、ガタおよび損傷	―		
走行装置	ホイール	タイヤの空気圧			3.0kgf/cm^2
		タイヤの亀裂および損傷			
		タイヤ溝の深さおよび異常な摩耗			残り溝1.6mmまで
		ホイール･ナットおよびホイール･ボルトの緩み			
		ホイール･ベアリングのガタ			
		ホイール･ベアリング･グリス交換			
緩衝装置	サスペンション･アーム リーフ･サスペンション	スプリングの損傷	―		
		スプリング取付部の緩みおよび損傷	―		
		スプリングの連結部のガタ	―		
電気装置	電気配線	接続部の緩みおよび損傷	―		
灯火装置および方向指示器		作用			けん引車と連動
車枠および車体		緩みおよび損傷	―		
その他		シャシ各部の給油脂状態			
トレーラー専用装置	カプラー	機能および損傷			
	安全チェーン	損傷および取付部の緩み			
	アシストホイール	作動および損傷			
	フロントサポート	損傷および取付部の緩み			
	ウインチ	作動および給油			
	バンクレール	損傷および取付部の緩み			

記事（主な交換部品、測定結果等）	自動車分解整備事業者の氏名又は名称、事業所の所在地 印

保証書

※下記に初年度登録日及び販売店の捺印の無い場合は、保証書の効力はありません。
お買い上げいただきましたトレーラーについて、構成する各部品に材料上あるいは製造上の不具合があり、これを弊社が認めた場合、この保証書にしたがって当該部品を交換または修理することを保証いたします。

● 保証の範囲

保証期間は初年度登録の日より6ケ月です。

● 保証の適用除外（有料修理となります）

次に示すものに起因すると判定できる故障または破損の修理は保証いたしません。

①地震、台風、水害などの天災および事故火災。
②仕様の限度を超える使用。（過積載・速度など）
③弊社が認めていない改造、純正部品以外の使用。
④事故または過失による取扱説明書に示す以外の取扱い。
⑤牽引車の故障による破損。
⑥登録を行なわずに使用している場合。
⑦保守、整備の不備または間違い。
⑧取扱説明書に示す保守整備（メンテナンス）を行なわなかった場合。
⑨通常の使用状態において消耗するもの（パッキン・オイルシール・ローラー・バンクレール等）は保証修理の対象になりません。

● 保証修理の請求

この保証書は指定販売店が販売したトレーラーに関する必要事項を記入捺印することにより有効となります。
保証修理をご請求される場合は、当該トレーラーとこの保証書を記入捺印した販売店にお持ちください。

● 保証の継承

保証期間内にあるトレーラーを購入されたお客様は、当該トレーラーと取扱説明書（保証書）を最寄の弊社販売店にお持ちいただき、記入、捺印と有料点検整備を受けることにより、残余の保証期間を継承することができます。

● 車検

車検の際は、必ず点検整備記録簿に添って点検をしてください。

機 種 名	SX-	牽引車種	

お 客 様	フリガナ お名前 ご住所 〒　　TEL　（　　）	※ 販 売 店	（店名･住所･電話番号をご記入の上、ご捺印ください。）（スタンプ可） ㊞
※ 初年度登録	（車検証の初年度登録に準ずる日付で納車日ではありません） 年　　月　　日		
※ 車体番号	（フレーム取付のアルミ記名板記載のNo.）	販 売 元	株式会社　ワイズギア 〒432-8058 静岡県浜松市南区新橋町1103
※ 登録番号			

販売店様へ（※欄をご記入･ご捺印の上、お客様にお渡しください。）

1.この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
2.この商品は持ち込み修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
3.本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

SPECIAL GEAR & ACCESSORIES

Y'S GEAR

ISO9001　認証取得

ISO14001　認証取得

⚠安全に関するご注意

商品を正しくお使いいただく為、ご使用の前に必ず取扱いの注意事項をご確認いただきご不明な点は販売店にお問合せ下さい。

●商品に関するお問い合わせ

株式会社ワイズギア

市内通話料でOK 携帯OK

0570-050814（ゴーワイズ）

オープン時間　月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日を除く）
9:00～12:00　13:00～17:00
◎一般の固定電話の場合、全国一律市内通話料でご利用いただけます。
◎IP電話や電話機の設定によってはご利用いただけません。

●商品の仕様及び価格は予告無く変更される場合があります。
●商品は予告無く販売を終了させていただく場合があります。
●ヤマハ発動機統合システムの中でISO14001を認証取得しました。

〒432-8058　静岡県浜松市南区新橋町1103番地　FAX.053-443-2186
インターネットホームページ　http://www.ysgear.co.jp/

11.06-3E